中国名所旧跡

目　次

【北　京】八達嶺の長域／故宮／頤和園／天壇／
　　慕田峪長城／明の十三陵 …… 1 ～ 2
【河北省】清の東陵／清の西陵／北戴河／山海関／
　　避暑山荘／外八廟 …… 2
【山西省】雲岡石窟／五台山／恒山懸空寺／応県木塔…… 3
【山東省】泰山／孔廟・孔府・孔林／蓬萊閣／労山 …… 4 ～ 5
【安徽省】九華山／黄山…… 5
【江蘇省】秦准／中山陵／紫金山／痩西湖／揚州の園林／
　　大明寺・平山堂／鑑真記念堂／虎丘／鎮江三山／
　　無錫太湖／蘇州の園林／寒山寺 …… 6 ～ 8
【上　海】豫園／淀山湖ー大観園…… 9
【浙江省】杭州西湖／霊隠寺／蘭亭／紹興の東湖／普陀山 …9 ～ 10
【江西省】廬山／井岡山／滕王閣／三清山 ……11
【福建省】鼓山／開元寺・東西石塔／武夷山／鼓浪嶼／万石岩 …12
【湖北省】黄鶴楼／武漢の東湖／高嵐景観区／武当山 ……12 ～ 13
【湖南省】武陵源風景区／岳陽楼／衡山 ……13 ～ 14
【広西壮族自治区】桂林山水／蘆笛岩・七星岩 ……14
【河南省】竜門石窟／少林寺／嵩山／鶏公山／竜亭 ……15
【四川省】長江三峡／杜甫草堂／武侯祠／峨眉山／青域山／
　　楽山の大仏／大足石刻／九案溝・黄竜 ……16 ～ 17
【雲南省】濱池・大観楼／西山・竜門／石林／大理三塔／
　　蒼山・洱海／西双版納 ……18 ～ 19
【貴州省】黄果樹濠布 ……19
【チベット自治区】ポタラ宮 ……20
【吉林省】長白山／松花湖 ……20
【遼寧省】瀋陽故宮／千山 ……21
【黒竜江省】鏡泊湖／五大連池 ……21
【陝西省】秦始皇帝兵馬俑／大雁塔・小雁塔／華山 ……22 ～ 23
【甘粛省】敦煌莫高窟／嘉浴関／麦積山石窟 ……23 ～ 24
【内蒙古頁治区】白音忽少草原／チンギスハン陵 ……24
【新彊ウイグル自治区】天池 ……24

▲故宮 Gugong
北京市
敷地面積：72 万㎡余
延床面積：約 15 万㎡
周　　壁：約 3 ㎞

故宮は、「紫禁域」とも呼ばれ、明・清両王朝の皇帝の宮殿である。明の永楽 4 年（1406）に着工し、永楽 18 年に完了。以来 560 年余、24 人の皇帝が主となった。

周壁の四隅には華麗な角楼が聳え、外側には幅 52 ㎝の堀をめぐらし、防備が厳重な城壁である。

宮殿には全部合わせて 9000 余りの部屋がある。すべて木造建築で、青白石を土台にしており、屋根には黄色い瑠璃瓦が使われていて、南北に走る中軸線に沿って並び、南北を中軸に , 左右対象になっている。

頤和園は、歴代皇帝の行宮と花園であった。乾隆帝は 1750 年に、清漪園と改称した。

1860 年に、清漪園は英･仏連合軍に焼き払われが、1888 年、西太后は海軍の経費を流用して、これを再建し、今日の名に改め、避暑地とした。

1900 年になると、頤和園は再び「八か国連合軍」に破壊され、多くの建物が焼き払われてしまった。1903 年に修復されたが、その後軍閥、国民党が中国を支配した時期にまたもや破壊された。解放後、補修された。

万寿山と昆明湖を中心に様々な形式の建物が 3000 間余り建ち並び、中国の造園技術の粋を集めている。

▲頤和園 Yiheyuan
北京市海淀区
園内面積：約 29 万㎡

▲八達嶺の長城 Badaling Changcheng
北京市延慶県
全長：6700 ㎞
（嘉峪関～山海関 2400 ㎞）
高さ：6 ～ 7m
幅　：4 ～ 5m

万里の長城は紀元前 7 世紀に建造が始められた。当時、中国の北方には諸侯が割拠しており、周辺の諸侯の侵入を防ぐため , 相継いでそれぞれの国境に一定の長さの防御壁を築きあげた。同時に、燕・趙・秦の三国の北方には , 少数民族の中でも遊牧を主とする匈奴が隣接していた。

紀元前 221 年、秦の始皇帝が中国を統一すると、それまでにあった城壁をつなぎあわせて , 今日の万里の長城の基礎ができあがった。

その後 , 歴代にわたる増築を元・明の時代になって、ほぼ今日のような形になった。

▲天壇 Tiantan
北京市崇文区
敷地面積：27 万㎡余

天壇（天地壇）は、永楽 8 年（1420）に築造。北京市崇文区の正陽門外、永定門内大街の裏側にある。

この天壇にて明・清両王朝の皇帝が、毎年天を祭り五穀豊穣を祈った。

建築物は厳密に設計され配列されており、珍しい構造と美しい装飾で、現存する最も精緻で美しい古代建築群と認められている。

1860 年に英仏連合軍、1900 年に 8 か国連合軍に侵入・占拠され重大な破壊を被った。

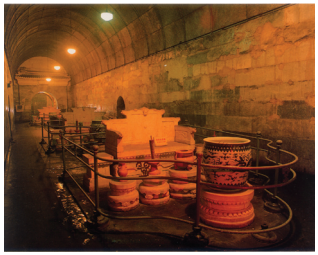
因みにアメリカの「ディズニーワールド」の中にある中国館は、中国のシンボルである祈年殿を真似て造られたものである。

天寿山麓の青山に囲まれた盆地に、明代の 13 人の皇帝の陵墓が、散在している。これら陵墓を総称して「明の十三陵」という。

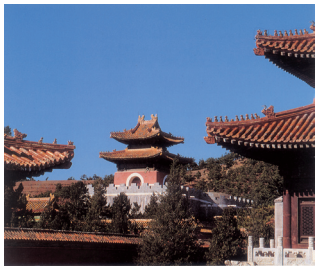
明の永楽7年(1409)に長陵(永楽帝)の造営から、清の順治元年（1644）思陵（崇禎帝）の竣工まで 200 余年にわたって増築された。

一般に見れるのは、建築規模が最大の「長陵」と地下宮殿を発掘してできた「定陵」二つの陵墓だけである。

その他の陵墓は、
献陵（仁宗）、景陵（宣宗）、裕陵（英宗）
茂陵（憲宗）、泰陵（孝宗）、康陵（武宗）
永陵（世宗）、昭陵（穆宗）、定陵（神宗）
慶陵（光宗）、徳陵（熹宗）
である。



▲明の十三陵 MinShianling
北京市天寿山麓
墓地面積：4 万㎡余



▲清の東陵 Qingdongling
河北省遵化県馬蘭谷
敷地：南北 約 125 ㎞
東西 約 20 ㎞

東陵は、明末皇帝の崇禎帝が、墓所として選定していた場所である。

しかし、天下大いに乱れた明末は、まったく着工できなかった。清の順治帝の没後、康熙 2 年（1663）に、この地を順治帝の陵墓とし孝陵を造営した。

順治帝につづく四人の皇帝も、ここに葬られている。康熙帝（景陵）、乾隆帝（裕陵）、咸豊帝（定陵）、同治帝（慧陵）である。他に后陵が 4 つ、妃園寝が 5 つ、公主陵が 1 つある。

この昌瑞山を中心にした東陵には、皇帝 5 人、皇后 14 人、妃嬪 136 人が葬られている。

▲雲岡石窟 Yungangshiku
山西省大同市
石窟全長：東西 1 ㎞

雲岡の石窟は、平城（現大同市）に北魏の興安 12 年（453）から開削が始まり、大和 9 年（495）の洛陽遷都の前に完成。像造は正光年間（520 ～ 525）まで継続し、現在まで 1500 余年の歴史をもつ。

石窟全体は山に沿って切り開かれ、現存する主な洞窟は 53、大小の像は 5 万 1000 体以上。

石窟彫刻のテーマと内容は , 殆ど「仏像と仏教上の故事」から構成されている。石窟における仏像は、最大高さ 17 m（第五窟の三世仏の中央座像）から最小は僅か数ミリ。

彫刻技法は、秦・漢代の芸術的伝統を継承・発展させ、のちの隋・唐代の芸術への橋渡しのなった。

五台山は、中国の有名な四大仏教山の一つである。

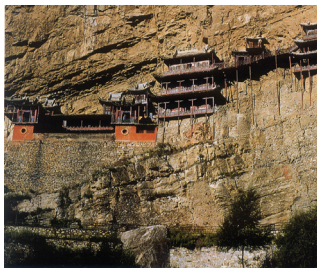
五台山の霊鷲寺（現・顕通寺）と洛陽の白馬寺とは中国の最も古い寺で、東漢のころに建てられた。後には仏教の伝播につれて、寺の建築規模もますます大きくなっり、魏・斉・隋・唐から清代に至るまで度々再建を重ねた。

民国初年、全山は寺廟が 100 余もあり、1000 人ほどの僧侶がいたという。

五台山に囲まれた台懐鎮は、寺廟が最も集中しているところで、仏教国の佇まいが現在でも漂っている。

5 峰の名称は、
東台　望海峰、西台　桂月峰、
南台　錦繍峰、北台　葉斗峰、
中台　翠峰巌　である。

▲五台山 Wutaishan
山西省五台県
5 峰の周囲：250 ㎞



▲恒山懸空寺 Hengshanxuankongsi
山西省渾源県

懸空寺は、今から 1400 年も前の北魏末期に創建された。歴代にわたって補修されつづけてきたが、初期の構造を今だに保持している。

先人は懸空寺を紹介するとき、次のように描写した。

「恒山に向かって緑の背景にもたれ、上に険しい岩石を戴き、下に深い谷を臨み、石を削って土台とし、岩によって家をつくり、構造は峻険にして独特の造形をなす」と。

銅鋳・鉄鋳・泥塑・石掘など 80 体余りの仏像があり、壁には代々の名士の題詠が彫られている。

▲泰山 Taishan
山東省の２市２県にまたがる
面積：426 ㎢

泰山は中国の東部に位置し又の名を「東岳」と言われ、古代人は東方を万物交代、初春発生の地と考えていたので「五岳独尊」と讃えてきた。山東平原に聳え、主峰は海抜 1545 m。

古代には多くの帝王が即位の初期の太平の年に、泰山で「封禅の儀」を行い、天地を祭った。

夏・殷・周３王朝の 72 人の君主が訪れたとつたえるが、記録上では秦の始皇帝からである。

孔子は「泰山に登りて、天下小なり」と言い、唐の詩人・李白は「崖に憑りて入極を望まば、目を長空の間に尽くす」と詠じ、又、杜甫は「会ず当に絶頂を凌ぐべし、衆山の小なるを一望す」と詠じた。

▲労山 Laoshan
山東省労山県
面積：300 ㎢

労山は山東半島の主な山脈で、主峰の山頂は海抜 1133 m。海辺に聳える姿は雄大で、『斉書』には「泰山雲高しといえども、東海の労に如かず」といわれている。

古くから労山は「神仏の宅 , 霊異の府」といわれてきた。秦の始皇帝や漢の武帝が仙薬を求めに来たとの伝説があり、神秘的な色彩を添えている。

また労山は有名な道教の名山でもあり、道家特有の幽深恬淡な雰囲気が漂う。最盛期には「九宮八観七十二庵」を擁し、全山で 1000 名にのぼる道士がいたという。

山東省曲阜は、孔子の故郷である。

曲阜には巨大な宮殿式建築・孔子廟、世襲 70 余代に渡る貴族の邸宅・孔府と林園墓地・孔林がある。

孔廟、孔府、孔林は「三孔」と呼ばれ、孔廟は孔子を祭っているところで、中国にはほとんどの省府と県城に孔廟がある。中でも最も大きなものは曲阜の孔廟で、全廟は南北 1 ㎞の長さもある。

400 以上ある殿堂閣廡の中には三殿、一閣、一壇、三祠、二嚮、二堂、二斎、十七亭、五十四門坊がある。前後合わせて９つの院で構成され、その厳謹な布局と雄大な気勢で、故宮に次ぐ規模の古代建築群となっている。

▲孔廟 Kongmiao
山東省曲阜市
敷地面積：22ha

九華山は、中国仏教四大名山の一つである。

唐代の文学者・劉萬錫は、九華山に登った後、「天下の名山で九華山に匹敵し得るもの無し」と賛辞を惜しまなかったという。李白は九華山に三度登っている。

東晋の時代 (401) には、すでに山上に寺廟が建立され始めた。以後 , 歴代を通じて拡張と増築がなされ「三里ごとに小寺、五里ごとに大寺」といった風に、山中に寺が建立された。最盛期には、寺 300 余り、僧 4000-5000 人、香煙が 1 年中絶えなかったという。

奇にして秀麗な山峰と仏寺九華山の特徴は、奇にして美しい山峰と幾多の仏寺である。

▲九華山 Jiuhuashan
安徽省青陽県
面積：100 ㎢ 余

▲蓬莱閣 Penglaige
山東省蓬莱県
面積：27 万㎡余

山東半島の丹崖山山頂にある蓬莱閣は、下に大海を臨み、殿閣が天をつき、雲がたなびき「仙境」と呼ばれてきた。北宋の嘉祐年間に建立された。

古からの伝説によると、蓬莱・方丈・瀛州は海上の３仙人が住み、不老長寿の薬があるといわれた。

史書には、秦の始皇帝や漢の武帝が何度も山東半島にやってきて、渤海に突き出た丹崖山に登り「蓬莱の仙境」を探し求めたといわれ、後の人びとは丹崖山を蓬莱と呼ぶようになった。

蓬莱：中国の神話で渤海にあり、
仙人が住む山といわれる

▲黄山 Huanfshan
安徽省１市３県にまたがる
周囲：250 ㎞

唐の天宝６年（747）に、黄帝が修身煉丹したという伝説にちなんで黟山から改称された黄山は、２湖・３瀑・24 渓・大小 72 の山峰を擁し、蓬花峰、光明頂、天都峰の三大主峰はいずれも海抜 1800 mを越える。

明代の地理学者で旅行家・徐霞客は、「五岳より帰り来て山を看ず、黄山より帰り来で岳を看ず」と、有名な言葉を残している。「五岳 (泰山・衡山・恒山・嵩山・華山) から帰った者は、普通の山など目に入らない。黄山から帰った者は、その五岳でさえ目に入らない」という意味だ。

郭沫若に「深く信ず、黄山は天下の奇」、陳毅に「天下第一山」の句があり、代々の名士・文人・学者が訪れ、詩・文章・絵は数えきれない。

▲中山陵 Zhongshanling
江蘇省南京市
総面積：3000ha 余

中山陵は、中国の偉大な民主主義革命の先駆者・孫中山（孫文）の陵墓。紫金山の南麓にあり、広大で、8 万㎡の広さがある。1926 年 1 月に着工し、1929 年の春に完成した。陵墓は木鐸形で、南から北へ山肌沿いに牌坊（鳥居形の門）、墓道、陵門、碑亭霊堂、墓室からなっている。墓室は海抜 158m で、墓道の入口から 700m 余に位置し、花崗岩の石段 392 段がある。

空から見下ろすと、緑のじゅうたんに描かれた「自由の鐘」のように見え、孫中山銅像が鐘の頂部、半円形の広場が鐘の円弧、墓室の天井部が鐘舌にあたる。

瘦西湖の美は曲線にあり。湖面は狭くなったり広くなったりし、両岸の樹木の枝葉の高低が粗密の変化に富み、見る人を夢中にさせる。

湖上には長堤、徐園、小金山、吹台、月観、五亭橋、昆荘、白塔などが点在し、これらは清の時代、江南を巡幸した乾隆帝を迎えるために揚州の塩商人によって造られたもの。亭の屋根は黄色で柱は朱色、それに白い欄干を配し、亭の天井には彩色画が描かれてあり、特徴的な南方建築で特色がよく出ている。橋そのものは北方建築様式で、南北の建築様式が巧みに組み合わされている。

又、五亭橋には 15 の橋孔があり、十五夜の月が 15 の橋孔に一つずつ映り、風情に富んでいる。

▲瘦西湖 Shouxihu
江蘇省揚州市
湖　　長：4.3 ㎞
遊覧面積：30ha

▲揚州の園林 Yangzhouyuanlin
江蘇省揚州市

揚州の園林は昔から有名である。「揚州画肪録」には、
「杭州、湖山勝り、蘇州、市肆勝り、揚州、園林勝り、三者鼎峙し、軒軽を分かたず」
とある。

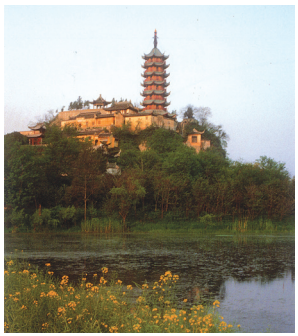
のちに、たびたびの戦乱で、多くの園林が廃虚と化し、現在はわずかしか残っていないが、その特色と美しさをよく留めている。

▲鑑真記念堂 Jianzhenjiniantang　江蘇省揚州市

鑑真記念堂は、中日文化交流史上大きな貢献をした唐代の鑑真和尚を記念するため、1973 年に大明寺の東北角に建立された。敷地は 2540 ㎡。

鑑真は揚州に生まれ、幼いときから出家し、のちに大明寺の住職となり、律学を講じ、文学、芸術、医学、建築などの深い知識をもっていた。

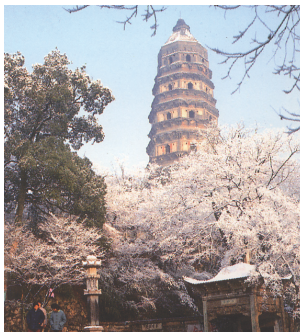
唐の天宝年間、日本から来ていた留学僧の栄叡、普照が日本政府の意を受けて、伝律授戒のために渡航を請うたが、当時の航海条件が悪く、5 回も失敗した。鑑真はそのあいだに失明したが、東渡の決意はゆるがず、ついに 6 回目で日本に着いた。鑑真は日本で 10 年間住み、中国の仏学、医学、言語、文学、建築、彫刻、書道、印刷術などを伝承した。



▲鎮江三山 Zhenjiangsanshan
江蘇省鎮江市

鎮江は江蘇省中部の長江南岸にあり、江南の古城として長い歴史を有する。名所旧跡の多い景勝地でもある。なかでも有名なのが金山、焦山、北固山の「京口三山」である。

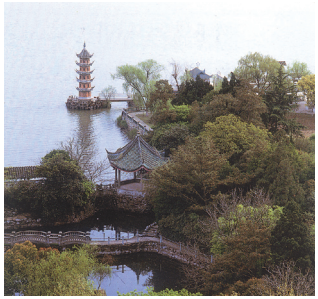
金山寺（写真）は晋の時代に創建されたもので、建築様式が独特で、殿堂、楼閣、亭台が山の斜面に沿って下から上へと連なるように立っている。



▲虎丘 Hugiu
江蘇省蘇州市

蘇州市の西北郊外、市の中心から 5 ㎞にある丘。

春秋時代に呉王夫差が、父親の闔閭をここに埋葬したところ 3 日後に白虎が現われ、この丘の上に坐って墓を守ったことにちなむ。宋の詩人・蘇東披は「蘇州に遊びて虎丘に遊ばずんば憾事なり」と言っている。



▲無錫太湖 Wuxitaihu
江蘇省
周囲：約 400 ㎞
湖面：海抜 3 m
水深：平均 2 m

太湖は中国第三の淡水湖で、湖中には 48 の小島が点在し、湖畔の半島の峰を入れると、72 の峰がある。

太湖絶景の竜頭渚太湖は江蘇・断江の 2 省にまたがる大きな湖であるが、美しい景色が集中しているのは無錫太湖である。なかでも絶景がみられるのが竜頭渚。太湖のなかに突き出た半島で、形が竜 (大亀) の頭に似ていることからこの名がついた。

太湖の風景を観賞する絶好の場所 (写真) では、荘々と広がる水と空が一体となり近くの山々は緑に映え、湖面には白帆が点々とし、その眺めは、絵図の世界を観ているかのようである。

蘇州の園林は、その精巧な造りと典雅なスマートさで、古来、「江南の園林は天下の甲、蘇州の園林は江南の冠」といわれてきた。

明・清の両代には、蘇州の園林は 200 カ所もあった。面積は余り広くないが、建物、築山、水池、花木などを巧妙に組み合わせ、大小の空間をうまくとり、借雫を巧みに使っているため狭さを感じさせない。

蘇州で最も古い庭園のひとつに宋初の詩人・蘇子美 (舜欽) が園内の池のほとりに建てた「滄浪亭」がある。屈源の『漁夫』の「滄浪の水」にちなんで命名し、「滄浪亭記」を記した。

▲蘇州の園林 Suzhouyuanlin
山東省蘇州市
敷地面積：

▲寒山寺 Hanshansi
山東省蘇州市
敷地面積：

寒山寺は蘇州市の西 5 キロの楓橋鎮にある。梁の天監年間（502-519）に創建され、当時は「妙利普明塔院」と呼ばれていが、のちに改称。

興廃をくりかえし、清の咸豊 10 年（1860）に全山が戦火で焼かれたが、清末に再建した。

一首の詩（唐の詩人・張継の詩「楓橋夜泊」）によって内外に知れ渡っている寺と言えば、この寒山寺をおいて他にはない。

月落ち烏暗いて、霜天に満つ
江楓漁火、愁眠に対す
姑蘇城外、寒山寺
夜半の鐘声、客船に至る

▲豫園 Yuyuan
上海市
敷地面積：5ha

明の嘉靖 38 年（1559）に造園し、万歴 5 年（1577）以降相次いで拡張された。

園内で目立つのが、上部に竜をほどこした壁である。竜壁は清代末に造られ、「五爪金竜」を嫌って、足の指は 3、4 本しかない。

豫園の主な建物は三穂堂で、かつては宴会に使用されていた。

東北隅にある点春堂は、1853 年に上海の小刀会（秘密結社で、会員は小刀を帯び、紅巾をまとっていた) が蜂起したときの城北司令部であった。

東北部にある玉玲瓏は、玉華堂の前にある高さ 4 メートルの巨石で、竜が彫られ、宋代のものといわれている。

上海市街から 50 ㎞のところにある澱山湖の東 2 ㎞に位置する澱山の風景区に造園された「大観園」は、清代の代表的小説『紅楼夢』に出てくる庭園をモデルにしたもの。1979 年から造られ 1989 年 10 月に完成した。

大観園は、東区と西区からなる。東区には観花園、オリーブ林、モクセイ園、柳堤春暁、梅鳩春濃、孔子廓などがあり、西区には書中の描写に基づいた「大観園」の建築群がある。

▲大観園 Daguanyuan
上海市
敷地面積：107ha

▲杭州西湖 Hangzhouxihu
浙江省杭州市
湖面：約 5.6 ㎢
湖周：15 ㎞
水深：平均 1.5m

湖は、三方を青山に囲まれ、四季折々の景色は、絵画の様である。1000 年来、西湖の美しさを謳った詩は数多く、枚挙にいとまがない程である。

なかでも北宋のころ、この地方の知事を務めた大詩人・蘇東坡の詩句「水光激灩として晴れ偏に好く、山色朦朧として雨も亦た奇なり、若し西湖を把って西子 (西施) に比ぶれば、淡粧と濃沫と両つながら相い宜し」はとくに有名。

広い湖には、一山・二堤・三島が調和よく点在し、自然美と人工美が西湖を秀麗なものにしている。一山とは湖の西北角にある孤山のことで、四方ともに水面で、山上からは西湖の美しさを満喫できる。

▲霊隠寺 Lingyinsi
浙江省杭州市

霊隠寺は、江南の有名な古寺で雲林禅ともいい、中国の禅宗十刹の一つである。西湖の西、飛来峰の近くにあり、三西湖からそれほど遠くなく、西湖の名所である。

東晋の威和元年（326）に建てられ、1600 年余りの歴史をもっている。

杭州を訪れたインドの僧・慧理がこの秀麗な山をみて、「仙霊所隠」（仏道修行者の心霊が隠れ住む所）と思い、ここに寺を開き、霊隠と名づけた。

10 世紀、五代の呉越の時代に、2 回拡張され、9 楼、18 閣、72 殿堂の大寺となり、部屋数は 130 余間もあり、僧侶ぼ 3000 人に達したという。

蘭亭は、紹興市の西南約 13 ㎞、蘭渚山の麓にある。

東晋の大書家・王羲之が、永和 9 年（353）にこの地で新しい友人と修禊を行った。書家の聖地といわれている。

蘭亭の上部に草書の二字「鵝池」が刻まれているが、これも王羲之の筆になるものと伝えられている。

王羲之は鵝（鷲鳥）が大変好きだったので、白分で飼っていたという。いまでも、蘭亭の鵝池には真白の鷲鳥が数羽いる。

現在の建物と庭園は、明の嘉靖 27 年（1548）以後に移設・再建したものである。

▲蘭亭 Lanting
浙江省紹興市
敷地面積：

▲普陀山 Putuoshan
浙江省普陀県
敷地面積：12.76 ㎢
最高峰「仏頂山」：291.3m

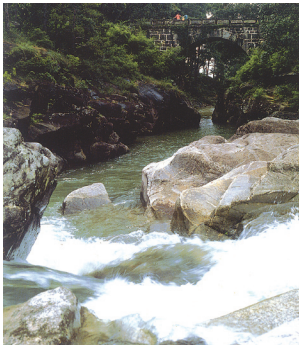
舟山群島の小島（南北 8.6 ㎞、東西 3.5 ㎞の長方形）で、浙江省の東北部に位置する。中国仏教四大名山の 1 つで、有名な海島風光の景勝地である。

五代の後梁の貞明 2 年（916）、日本人僧侶彗鍔が五台山から帰国する途中、台風に阻まれ当地で庵を結んで逗留したと伝えられる。

仏教の地として栄え、最盛期には、寺庵が 82 カ所、僧尼が 4000 人を超えたという。

「山と湖で美しいのは杭州の西湖、
山と海で美しいのは、この普陀」
と昔からいわれている。

景勝地は、千歩沙・潮音洞・汎音洞・南天門・西天門など 20 余。



▲廬山 Lushan　江西省九江市

江西省北部、九江の南にあり、北は長江、東は鄱陽湖に臨む白然景観の美しい山。古くから天下の絶好の避暑地・景勝地として知られている。

多くの峰がそそり立ち、最高峰の漢陽峰は標高 1,474 m。

代々、文人墨客が名を慕って訪れ、陶淵明・李白・杜甫・白居易・蘇軾・陸游・笵仲俺らが詩詞に詠じ、岳飛・文天祥・李時珍・除霞客も登った。

▲井岡山 Jinggangshan　江西・湖南省境

羅霄山脈の万洋山の北部にある険しい天然の要地で、海抜が最高峰の 2,120 mをはじめ 1,000 m以上の峰がいたるところにあり、小峰を含めると 500 余カ所もある。盆地が多く、美しい景勝地である。

中国のかつての有名な革命の根拠地で、新中国成立への革命の道を切り開いた地でもある。

▲滕王閣 Tengwangge
江西省南昌市

古来、江南の三大名楼の第一にあげられ、その高さ、面積は歴代の四閣をしのぎ、現存の黄鶴楼、岳陽楼をも上回っている。

唐の顕慶 4 年（659）、太祖の弟の滕王李元嬰が、洪州（現・南州市一帯）に都督となったときに創建された。興廃をくりかえし、明の景泰年間 (1450-1456) に再建された。高さ 27 m、幅約 14 mの三層楼。その後さらに修復され、現在の滕王閣は高さ 57.5 m、敷地面積 4700 ㎡で、地下室を加えると、九層になる。

滕王閣はかつて封建社会の上層階級が賓客を送迎したり、宴を設けたところで、明代の開国皇帝・朱元璋もここで宴を開き、享楽に耽ったことがあったという。

▲鼓山 Gushan
福建省福州市
敷地面積：

鼓山といえば石鼓ともいい、摩崖石刻が第一に挙げられる。この有名な西安の碑林は、全国各地の石碑を一カ所に集めたものである。

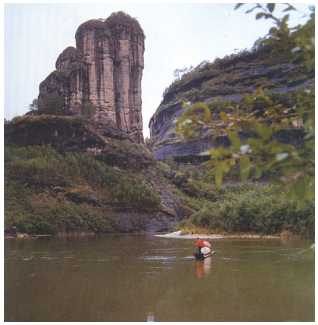
現存している最古の石刻は霊源洞の東壁に刻された宋の慶歴 6 年 (1046) の蔡襄らの筆跡である。それには「召盾去華、蘇才翁、郭世済、察君謹、慶歴丙戌孟秋八日、霊源洞に遊ぶ」とある。楷書体で , 字径は 40 ㎝もある。

蔡君謨は蔡襄のことで、蘇拭、黄庭堅、米**芾**と並び称される宋代の四大書家のひとりでもある。

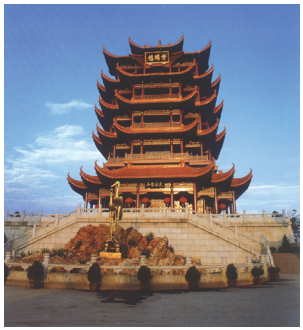
武夷山には「三三」「六六」の名勝があると言われている。「三三」は三三が九を意味し、山の中を流れる九曲渓を指し、「六六」は六六三十六を意味し、36 の奇峰を指している。山あり、水あり、山奇にして水美しく、山と水が相映えあって織りなす風光が武夷山の特色である。

武夷山の峰は一般の峰とは違って、砂礫岩が重なりあってできたもので、断崖のようにそそり立ちその姿は男性的である。

峰の頂には松や竹が茂り、崖壁は険しく濃い赤色を呈している。しかも群峰がみな東を向いており、万馬が奔走しているかのようである。



▲武夷山 Wuyishan
福建省崇安県
周囲：60 ㎞



▲黄鶴楼 Huanghelou
湖北省武南市
敷地面積：

黄鶴楼は三国志の物語でよく知られている三国 (西暦 220-280) 時代、呉の黄武 2 年（223）の建立である。

以後、1700 余年の間に破壊、再建が繰り返された。明と清の時代だけでも 7 回も破壊を被り、再建・修復は 10 回もおこなわれた。世に「国運さかんなれば楼運もさかんなり」といわれてきた。

中国歴代の名士・崔顥、李白、白居易、王維、賈島、陸游、楊慎、張居正らも黄鶴楼に遊び、詩を吟じ、詩作を残している。

崔顥（唐の詩人 , 没年 754 年）の詩「黄鶴楼」は、千古不滅の名作といわれ、中国では多くの人たちにそらんじられるほど愛誦されている。

▲武漢の東湖 Wuhandonghu
湖北省武漢市
面積：87k㎡

東湖は、東西南北の周辺の自然環境がそれぞれ異なっていて、湖岸が曲折に富む。聴濤、磨山、落雁、白馬、吹笛、珞洪の六区に分けられている。

落雁区の北側にある白馬区は、言い伝えによると、三国志の時代に魯粛が周瑜を助けて曹操の軍勢を打ち破り、白い馬に率ってこの砂洲を通るときに、馬が泥の中にはまって死んでしまい、この地に葬られた。

以来この一帯は白馬洲と称されてきたと言われている。

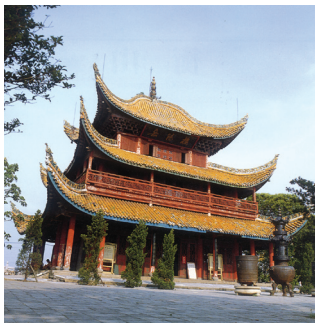
もっとも景勝に富む西岸には、屈源記念館や魯迅広場をはじめ梨園・橘園・竹園・蓮園などがある。

中国武術の武当拳で有名な武当山は、昔から天下の名山として知られていた。北側は秦嶺山脈に通じ、南側は巴山に接し、縦横 400 余キロに及ぶ連山が起伏している。

宋の頃の書家・米**芾**は武当山を讃えて、力のこもった筆致で「第一山」(天下一の山のこと) という三つの字をしたためた。

武当山の道教は、「玄天真武上帝」をまつるものでり、武当山という山名は「真武にあらざれば当るあたわざるなり」という表現から来たといわれている。漢代の陰長生、晋代の謝允、唐代の呂純陽、五代の陳摶、宋代の冠然子、元代の張三豊、清代の張守清など道教の歴代名士が修行した。

▲武当山 Wudangshan
湖北省丹江口市
周囲：400 ㎞



▲岳陽楼 Yueyanglou
湖南省岳陽市
敷地面積：

洞庭湖の畔に建立された岳陽楼は、中国古代建築の粋ともいわれ , 昔から、「洞庭は天下の水、岳陽は天下の楼」と称えられてきた。

三国時代の呉の魯粛（172-217）が水軍を訓練するために築いた閲兵台と伝えられる。

岳陽楼は、北宋の著名な文学者・范仲淹 (989-1052) が不朽の散文「岳陽楼記」を書いたことで特に有名になった。杜甫は「岳陽楼に登る」で、

昔聞洞庭湖　今上岳陽楼
呉楚東南坼　乾坤日夜浮
親朋無一字　老病有孤舟
戎馬関山北　憑軒涕泗流

と詠んでいる。

▲衡山 Hengshan
湖南省衡山県
面積：87㎢

衡山は「南岳」ともいわれ、中国の五岳 (五大名山) のひとつで、南巡中の舜や治水のため禹も訪れたと伝えられる。

気候が他の四岳より良く、木々が生い茂り、竹やぶが至る所にあり、一年中緑が楽しめ、いろいろな花が咲きほこり、美しい自然に恵まれている。従って、「美しいのは南岳のみ」という表現さえある。

清朝の魏源の書いた「衡岳吟」には「恒山は行くがごとく、岱 (泰) 山は坐するがごとく、華山は立つがごとく、嵩山は臥するがごとく、ただ南岳のみが飛ぶがごときなり」というくだりがある。これは衡山の美しさを讃えたものである。

広東省肇慶市の星湖風景名勝区は、七星岩（肇慶星岩）と鼎湖山の二つの部分からなり、中国南部の有名な観光地である。

湖の岸辺に沿って、険しい石灰岩質の山峰が七つも聳え立っている。夜空に輝く北斗七星のような形に散在しているので、七星岩と呼ばれている。

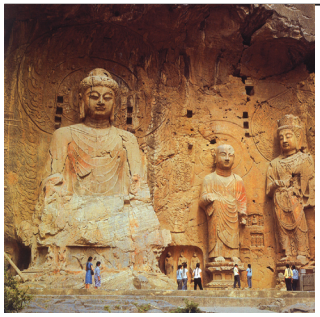
7 つの岩は、東から西へ順に　風岩、玉屏岩、石室岩、天柱岩、贈蟾岩、仙掌岩、阿坡岩である。いづれの岩も北方に山を負い、三方を湖水に取り囲まれている。これらの岩が湖にその影を落とし、さまざまな形が投影されて、実に美しい。

肇慶星岩 Zhaogingxinggang
広東省肇慶市
面積：

▲桂林山水 Guilinshanshui
広西省広西チワン族自治区
全長：110 ㎞余
（北は興安県から南は陽朔県まで）

桂林は北東の滴江の両岸に展開する都市で、カストル地形の発達、地水の浸食、地殻の変動によって、諸山はいずれも平地から突き出て、様々な形の奇峰が林立する。南北朝の時代に、すでに桂林の美しさを讃えた資料が残されている。唐の時代になると、桂林の美しさを讃えた詩や文章がなおさら多く、一千年以上も前から桂林が観光の名所であった。

桂林の「山水の美しさ」は、古くから「桂林の山水は天下に甲たり」といわれ、山・洞穴・水は、「桂林の三絶（桂林の三つの絶景の意味）」といわれる。



▲竜門石窟 Longmenshiku
河南省洛陽市
※写真は奉天寺大仏（高さ：17.14m）

敦煌、雲岡とともに中国三大石窟の 1 つ。洛陽市から南へ 13 ㎞。伊水という河をはさんで東西に向かいあっている、香山と竜門山の岩肌に約 1 ㎞に渡って、北魏の孝文帝の洛陽遷都（494 年）前後から後唐まで 400 余年間掘りつづけられた石窟群である。

この石窟には現在保有されているものだけでも、1300 余の洞、97000 余体の仏像、3600 以上の題記 , 碑文がある。

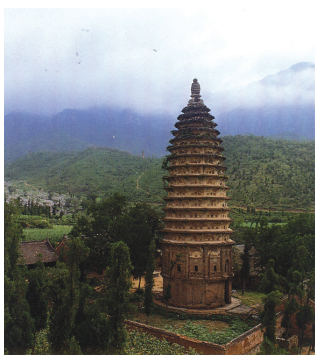
代表的な洞窟に、北魏代の古陽洞・賓陽洞・蓮花洞・薬方洞、唐代の潜渓寺・奉先寺・看経寺・万仏洞などがある

北魏の太和 19 年 (495) に創建され、32 年後にインドの名僧・達磨大師が訪れ禅宗を創始した。

達磨大師が、ここ少林寺で「面壁九年」の修行をしたことで、いわば禅宗の発祥の地でもある。少林拳法も達磨大師が編み出したとされている。

唐の太宗・李世民が王世充を討伐した際、少林寺の曇宗ら 13 人の僧がこれを助けて功績を立てたので、李世民はのちに曇宗を大将軍に封じ、少林寺の僧たちが拳法を習練し、酒を飲み肉を食べることを特別に許したという。

▲少林寺 Shaolinsi
河南省登封県
面積：



▲嵩山 Songshan
河南省登封県
面積：

鄭州の西南 75 ㎞にある名山で、中国五岳のひとつ。中原 (黄河の中流地域) にあるので、「中岳」といわれる。

主峰は標高 1492 メートル、高く聳えていることから、峻極峰と呼ばれている。

かつて「嵩高峻極」とか「峻なること天に極まる」といわれ、峰頂で遠望すると、北に黄河が見え隠れし、山麓には名所旧跡が星のごとく点在する。さらに嵩山には「上に七十二峰あり、下に七十二寺あり」といわれるほど多くの峰と寺がある。

昔から聖なる名山として知られ , 旧跡が多い。なかでも、秦の時代に創建された道教廟の「中岳廟」が特に有名で、嵩山の南麓に位置する。

▲長江三峡 Changjiangsanxia
四川省奉節県～湖北省宜昌市
全長：204 ㎞

長江の三峡峡谷は、瞿塘峡・巫峡・西陵峡の総称で、世界最大の峡谷の一つに数えられている。壮麗な山河を持つ天然の景勝として有名である。

長江は、西を白帝城に発し、東は南津関まで流れ、その間を流れる河の両岸には断崖絶壁があり、激しい流れの中には暗礁が至る所にある。

唐代の詩人・李白はここを通った時、「朝に辞す白帝彩雲の間、千里の江陵一日に還る、両岸の猿声暗いて住まず、軽舟已に過ぐ万重の山」とその美しさを讃えている。

三峡沿いに東に下ると、 白帝城・神女峰・高唐観・昭君村・屈原宅など名所旧跡がきわめて多い。

▲峨眉山 Emeishan
四川省峨眉県
面積：

峨眉山は主峰「万頂頂」が 3099 m、中国の名山の中で最高の高さを誇る。

高いため気候の変化も大きく、山の下と上では気温の差が約 15 度もあり、この自然環境が各種の植物にはよい成長条件になっている。現在までに判明しているところ、3000 種余りの植物が分布している。

山は高く、峰々が連なっていて、山麓の最初のお寺・報国寺から主峰の金頂まで , 道程は 60 ㎞余ある。長く、曲がりくねった山道はすべて青石を敷き詰めた階段である。

峨眉山は中国仏教四大名山の一つで、２世紀に仏教が中国に伝わって以降、山上には絶えず寺が建立され、最盛期には 100 を越えたという。

杜甫草堂は、詩聖・杜甫（712-70）が住んでいた庵で、成都市西郊外の浣花渓の畔に所在する。杜甫は流浪の果てに成都に辿り着き、友人の助けを得て成都の西にある浣花渓の畔に草堂を建てた。

杜甫はここに４年近く住み、240 編あまりの詩を書いた。「春夜喜雨」「茅屋秋風の破る所と為る歌」などはここで書いたものである。

この偉大な詩聖を記念するため北宋の元豊年間（1078-85）になってから、記念の茅屋を建て、祠を設け故人を偲ぶようになった。

庭園には、梅・樟・竹が生い茂り、渓流と小橋が交錯し、詩情豊かである。

▲杜甫草堂 Dufucaotang
四川省成都市
広さ：20ha

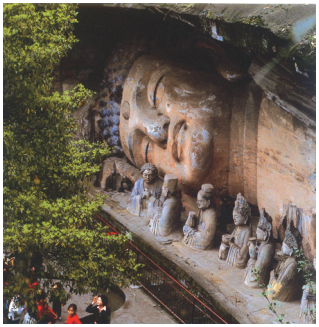
中国石刻芸術といえば、敦煌の「莫高窟」、洛陽の「竜門石窟」、大同の「雲岡石窟」を中国三大石窟としてあげられるが、四川省大足県の大足石刻も芸術的にいささかも見劣りしない。

大足は石刻の里であって全県 40 カ所あまりに石刻があり、像の数は５万以上になる。その中でいちばん有名で規模がいちばん大きいのは二カ所、宝頂山と北山である。

宝頂山は県城東北 15 ㎞にあり、多くの仏教徒が参詣に訪れる。

「上りて峨眉に朝し、
　下りて宝頂に朝す」

といわれ、仏像の石刻が多く（13 か所）、風景が良好である。



▲大足石刻 Dazushike
四川省大足県
面積：

▲武侯祠 Wuhouci
四川省成都市
面積：3.5ha

蜀の丞相・諸葛孔明を記念して、武侯祠は唐代に創建された。

西晋末期、十六国の成漢（304-47）の李雄（在位 304-34）が、少城内に最初に建てたもので、後に現在地に移された。

唐代の詩人・杜甫は、
「丞相の廟はいづこと尋ぬれば、錦官城のほど近く、緑にしげき社なり」
と詠った。

現在の武侯祠は清代康熙帝の時代に再建されたもので、先主の蜀帝劉備（昭烈帝）の廟と繋げられ、「漢昭烈廟」となった。

▲九案溝 Jiuzhaigou　四川省南坪県

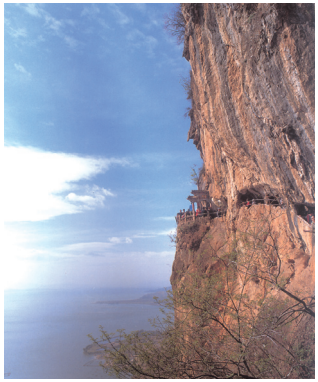
九塞溝は、縦深 40 ㎞余の峡谷で、四川省の岷山山脈にある。チベット族の村落が九つ、この山中にあったので、「九塞溝」という名はここからきている。

周囲に群山が折り重なり、数十の雪山が聳え、山上から河谷にたるまで原始林に覆われている。河谷には海子といわれる大小 100 余の湖沼はまっ青で、鏡のように澄んでいる。

▲大観楼 Daguanlou　雲南省昆明市 市街西方 4km

大観楼は、道光 8 年（1828）に増築され、木造で雅やかな 3 階建ての建物である。楼の前には 3 つの石亭があり、その雅びやかさは、杭州西湖の三潭印月を模倣して作った飾りである。楼に登って欄干越しに南方を眺めれば、**滇**池や「眠れる美女の山」（西山）の美しい景色を楽しむことができる。

大観楼の正門の両側に「古今最長」と言われる対聯がある。この長い対聯は清代の寒士・孫髯翁が撰したもの。顔派の楷書で書かれた、整った厚みのある書体で，雲南省の文化、芸術を好む人は、この対聯を諳んじている。



竜門は潭池より 300 m高く、斧で削り取ったような垂直の絶壁の上にある。北魏の孝文帝の洛陽遷都（494 年）前後から唐代まで 400 年余りにわたって彫り続けられた。

三清閣の「別有洞天」から、天閣石室までの間は大規模な石刻の連続であり、自然と人工を巧みに融合した風景地である。

伝承によれば、創設者は清代の貧しい道士・呉来清である。呉来清が死んだ後、楊如蘭と楊際寿が、西山の麓の竜田村の 70 世帯余りの石工を卒いてこれを続けた。

代表的な洞窟に北魏代の古陽洞や唐代の万仏洞など 2100 余、仏像 97300 余、3600 余りの題記と碑碣と 39 の仏塔がある。

▲竜門 Longmen　河南省洛陽市

▲石林 Shilin
雲南省大足県路南彝族白治県
面積：2.4 万 ha

石林は昆明東南 120km にあり、「天下第一の奇観」を有する、古生代に形成されたカルスト地帯ある。大石林・小石林・外石林・芝雲洞・気風洞・黒松厳・蔵湖などからなる。

石林の山峰には、壮士が戦う姿や母と子が寄り添う姿、鋭い剣の形、鳥、獣の形など種々様々の峰があって、豊富・絶妙である。景色には、それぞれに相応した名が付けられている。

例えば、形が霊芝に似た大きな岩は「万年霊芝」、美しい孔雀が口昔で白分の羽根を杭いているような形は「孔雀の羽根椀き」などである。

▲大理三塔 Dalisanta
雲南省大理市
面積：

大里市の旧城西北 1 km、蒼山の麓、洱海の湖畔に鼎立する。もとは崇聖寺（廃滅）の一部であった。

大塔は千尋塔といい、方形 13 層、高さ 69.13m の中空塔である。両側に立つ南と北の二つの小塔は、どちらも高さ 42.19 m、八角 10 層の煉瓦塔である。三つの塔が渾然一体となっていて、その景観は雄大で、素朴な古代の民族的風格を漂わせている。

三塔の建立年代については種々の説があって、一般には千尋塔が唐代の南詔国の保和年間 (824-839) と言われている。

西双版納には寺や仏塔が多い。中でも特に有名なものは、大勐竜仏塔と景真八角亭である。

大勐竜仏塔は九つの白い塔からなる群塔で，景洪県大勐竜の曼飛竜村の背後の山にあり、曼飛竜塔とも呼ばれている。塔身が雪のように白く、尖塔が金色に輝き、地上に頭を出した玉杓のように見える。

主塔は 16.29 m、周囲の八つの小さな塔はみな 8.3 mである。群塔は特色ある優美な造形で、風格がある。

景真八角亭は、勐海県の景真山にある。1701 年の建立。高さ 12.42 m、幅 8.6 mで、精緻かつ華麗で優美な造形をなし、傣族の仏教建築である。

▲西双版納 Xishuangbanna
雲南省景洪県

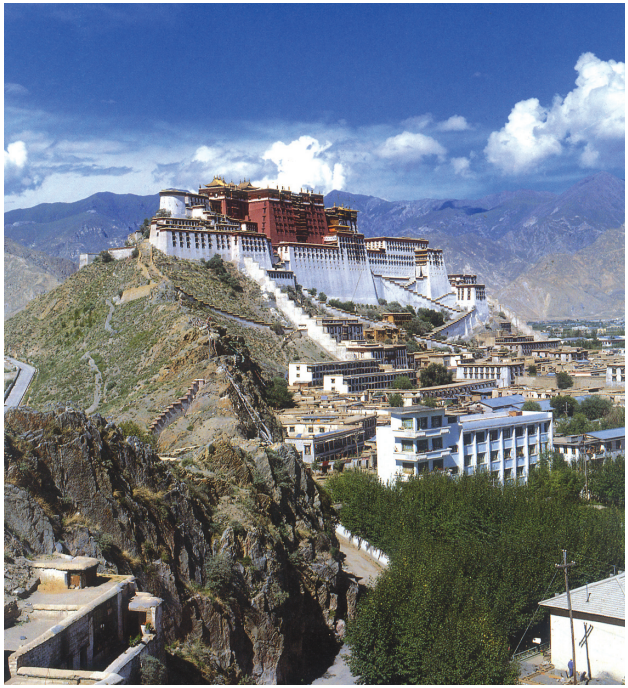
▲黄果樹濠布 Huangguoshupubu
貴州省鎮寧布依族苗族自治県

県城西南 15km の白水河にある。東北部の断崖から流れ落ちる白水河は、黄果樹に至ると 9 段の瀑布を形成。

最大の黄果樹濠布は、高さ 67 m、頂上部の幅は 84 mである。

1638 年、中国明代の地理学者・徐霞客（1586-1641）は黄果樹曝布を視察し、その旅行記に次のように記している。

岩を翻し雪を噴き、
渓みな白鷺の群れ飛ぶが如し。
一渓懸携し、万練空を飛ぶ。
珠を掲き、玉のぼを飛ばし、
飛沫反って涌き、姻霧の如く
空を騰り、勢い甚だ雄励。
謂う所の珠簾鉤して巻かず、
飛練逢峰に掛かる、
倶に以てその状を擬するに足らず。



▲ボタラ宮 Budalagong　四川省西蔵自治区拉薩市紅山

ポタラ宮はいまから 1300 年以上前、西暦 7 世紀に建設され始められた。ポタラというのは「仏教聖地」という意味である。その頃、吐蕃王朝は最盛期にあって、吐蕃王ソンツェンガンポは唐と姻戚関係を結び、文成公主を妻に娶るために、999 間の殿堂をもつこの宮殿の造営を命じた。「一城を築き、以て後世に誇らん」としたのである。総面積 13 万㎡、13 層の主楼は高さ 117m、東西 360m。歴代ダライラマの冬宮である。

▲長白山 Changbaishan　吉林省

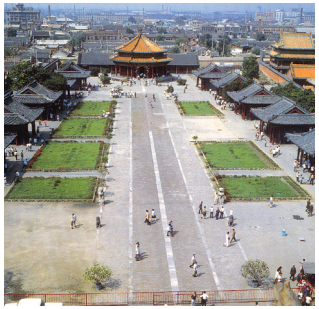
長白山は吉林省の東南部にあり、一部は朝鮮国境内にまたがっている。最高峰の白頭山は、海抜 2749 mである。

山は高く, 寒冷の地にあり、山の上は一年中積雪が消えず、草木も生えず、見渡す限りどこも白いので、長白山という名がついた。

▲松花湖 Songhuajhu　吉林省

松花湖は吉林市市街東南 24 ㎞の第二松花江の上流にある。

湖の形は細長く、長さ 200 ㎞、幅約 10 ㎞、水深 70 m余り、貯水量は約 110 億リットルで、中国で 1、2 を数える大人工湖である。



▲瀋陽故宮 Shenyanggugong
遼寧省瀋陽市
敷地面積：6 万㎡

瀋陽の故宮は 1625 年に、後金の初代皇帝ヌルハチが着工し、二代皇帝ホンタイジが引き継ぎ、1636 年に完成させた。

瀋陽の故宮は、清朝の最初の皇宮で、盛京宮闕といったが、北京遷都（1644 年）後は奉天行宮といった。

規模は、敷地面積 72 万㎡の北京故宮より遥かにく、300 室余の建物、十数個の院落からなる。周囲に高大な宮壁をめぐらし、皇宮全体に楼閣が聳え、殿宇（御殿）は、華麗かつ威風堂々としている。

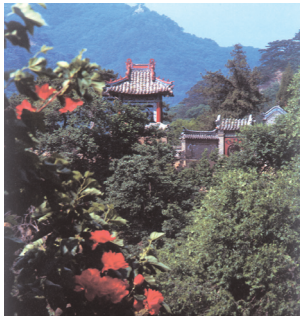
北京故宮に次ぐ、完全な形の皇宮である。

旧称を千華山といい、峰が 999 あるので千山といわれた。

隋、唐の時代から創建され、遼、金の時代には、寺院建築はかなりの規模をもつようになった。

明、清の時代にも引き続き多くの寺院が建立されたた。その中に有名な寺、祖越寺・竜泉寺・大安寺・中会寺・香岩寺があり、総称して「五大禅林」と呼ばれた。五大禅林の中でいちばん大きい寺は竜泉寺で、北溝中部の林の中に建造されている。

千山の寺院建築の特徴は、山を背景にして建築されたことで、”山の中に寺、その寺の外を山”が囲んで山と寺が一体となっていることである。



▲千山 Qianshan
遼寧省鞍山市
面積：300 ㎢
海抜：700m

▲鏡泊湖 Jingbohu
黒竜江省寧安県
長さ：南北 45 ㎞

鏡泊湖は、省東南部の山間部にある。渤海国（698-926）では「忽汗海」といい、明・清代には「畢爾勝湖」といい、「北方の西湖」とも言われている。

東西は一番広い所で、6 ㎞という細長い高山堰塞湖。何万年も昔に火山が爆発し、流れ出た溶岩が牡丹江を塞いでできた湖である。

大狐山・小狐山・白石磴子・老鶴磴子・珍珠門・瀑布・道子山・城牆磴子の「8 景」があり、多くの伝説が語り伝えられている。

湖面は海抜 350 m、水深はいちばん深い所で 60 m以上、一番浅いところでは僅か 1 mという。水面は約 90 ㎢、容量は約 16 億㎥。

▲秦始皇帝兵馬桶坑
Qinshihuangdibingmayong
陝西省臨潼県
面積：

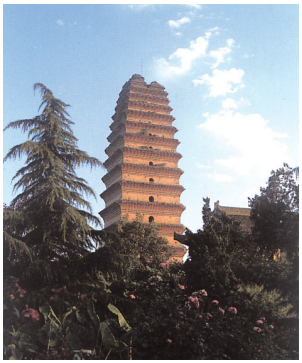
秦始皇帝兵馬桶坑は、秦始皇帝陵（県城東方 5 ㎞、下河村近くにあり、高さ 55m、周囲 2 ㎞）の東約 1.5 ㎞に 3 つある。

一号坑は、1974 年に地元の農民が井戸を掘る際に発見され、その後ボーリングして二号坑と三号坑を発見した。一号坑が最も大きく、東西の幅 230 m、奥行き 612 m、深さ 4.5 ～ 6.5 m、総面積 1 万 4260 ㎡。この坑には等身大の陶塑（泥人形）約 6000 体が、方形の陣形で並んで埋められている。

兵馬桶は現実の生活を基礎として創作されたもので、芸術的手法はきめ細かく明瞭で陶桶の装束や表情はそれぞれが違っていて、いずれも東方を向いている。

髪型だけでも何種類もあり、手つきも各々異なっており、顔の表情は尚更まちまちである。その装束、表情、手つきから、将校であるか兵士であるか、歩兵であるか騎兵であるか、御者であるかを判断できる。

▲大雁塔 Xiaoyanta
陝西省西安市慈恩寺境内



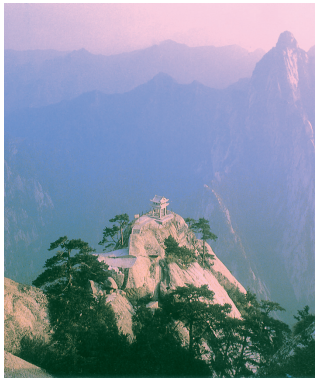
▲小雁塔 Xiaoyanta
陝西省西安市薦福寺境内

名僧・玄奘がインドから帰国後、唐の太宗は玄奘に慈恩寺の住持を命じ、特に玄奘のために翻経院を建てた。玄奘はここで経書を翻訳するほか、有名な『大唐西域記』を著した。また、玄奘は持ち帰った経書を保存するため、高宗の援助で永後 3 年（652）、慈恩寺境内に高さ 59m の大雁塔を建立した。

慈恩寺境内にあるため慈恩寺塔といったが、のちにこの名に改称した。慈恩寺は唐の貞観 22 年（648）、高宗（在位 618-626）が母の文徳皇后の冥福を願って創建したものである。

小雁塔は、唐代の有名な献福寺 (のちに薦福寺に改名) 境内にある仏塔。

薦福寺は唐の文明元年（684）、高宗死後の百箇日に皇族が「福を献ずる」ために建立したものである。高さ 43m。



▲華山 Huashan　陝西省華陰県

華山は中国の五岳の 1 つで、西岳とも呼ばれている。

昔からその雄大、峻険な姿で天下に聞こえ、「華山は天下の険」といわれている。峻険というのは華山の特色であり、至る所が絶壁で、山道が険しい。

最高峰は海抜 2100 mほどで、北は黄河を俯瞰し、南は秦嶺に連なる。

『水経注』に「遠くにありて之を望まば花の状の若し」とあるので華山といい、西方は少華山に臨むので太華山ともいい、峻秀でもって知られている。

名勝旧跡がきわめて多い。

莫高窟は、俗に千仏洞といい、「敦煌石窟」ともいわれる。

敦煌県県城の南東 25 ㎞の鳴沙山東麓の断崖にあり、長さ南北約 1600 m、高さ 50 m、上下 5 層にわたって蜂の巣のように幾重にも重なっている。

石窟には、十六国、北魏、西魏、北周、隋、唐、五代、宋、西夏、元の十王朝 1000 余年にわたる壁画と彩色塑像 2000 体余りが保存されている。

▲敦煌莫高窟 Dunhuangmogaoku
甘粛省敦煌市
面積：

▲嘉浴関 Jiayuguan
甘粛省嘉浴関市
面積：3 万 3500 ㎡

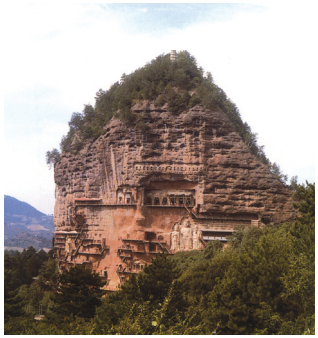
嘉浴関は嘉浴山の麓、万里の長城の西端にある。600 年余り前の明の洪武 5 年（1372）に営造された。

嘉浴関は那連山、嘉浴山の間にあり、両翼の城壁がゴビ砂漠のなかに延びている。

地勢の険峻さは自然に出来上がったもので、万里の長城の防御線上の重要な軍事要塞として、歴代の統治者はみな軍隊を派遣して鎮護した。

嘉浴関の城は、台形をなし、周囲 733m、高さ 10m、姫垣の高さ 1.7m、東西南北に城門がある。城楼は対称をなし、柱間 5 間の 3 層、高さ 17m で、周囲に回廊をめぐらしている。

堅固・雄大そのもので、「天下雄関」と称せられた。



▲麦積山石窟 Maijishanshiku
甘粛省天水市
面積：

天水市の南東約 45 ㎞の山中にある秦嶺山脈西端の小瀧山の奇峰。高さはわずか 142 mだが、山の形が麦の束を積み上げたような格好で聳え立っているので、麦積山と呼ばれている。

後秦代に開削して、像を彫り仏寺を創建した。西魏の文帝（在位 535-51）のときに崖閣を改修して寺院を再興し、皇后の乙弗氏が亡くなると、龕を開削して葬り、北周代には仏閣を 7 つ開削し、隋文帝は宝塔を建て、勅令を発して神尼の舎利を葬った。

峰の南西側は、麓からの高さ約 30 m（高い所では 80 mにも達する）の絶壁で、この絶壁にも石窟が掘られている。

チンギスハン陵は、包頭市の伊金霍洛旗阿騰席連鎮の東南 15km にある。

1227 年、西夏王国との戦いの間にチンギス・ハンは病死したと伝えられているが、その埋葬の場所は諸説があり定かではない。

その陵のある場所は、チンギス・ハンが生前から指示しておいた所で、草原の最も美しい風景だと伝えられている。

▲チンギスハン陵（内部）
Chengjisihanling
内蒙古自治区包頭市

▲天池 Tianchi
新彊ウイグル自治区阜康県

天池はウルムチから約 110 ㎞離れた天山山脈の最高峰ボゴダ峰の中腹にある。もとは瑶池といい、周の穆王が西遊の際に西王母と宴会を開いて楽しんだ所と伝えられる。

湖面は海抜 1928 m。水が澄み、色は青く、湖の面積は 5 ㎢足らずで細長い形をし、長さは約 3000 m、幅は最も広い所で 1000 m余り、最も深いところは約 100 m、真夏でも湖水温度はかなり低く、涼しい風が吹いて、暑さも消し飛ばしてくれる。

天池の後ろにボゴダ峰が控えている。同峰は天山の二番目に高い峰で、海抜 5400 m、峰は年中雪に覆われている。

楽山大仏